

<建設業会計1級(原価計算)ミニテスト16> 標準原価計算制度

【問題】

CMC建設の福利厚生部門費は、複数の現場に同時にサービスを提供する工事間接費である。Excelにて近年のコスト分析を行ったところ上昇傾向がみられたため、変動予算方式によって重点的に管理を行うことになった。次の資料によって、福利厚生部門費の標準原価差異分析を実施しなさい。

<資料>

1. 前期末までに確定した福利厚生部門費の年間予算データ

予定した総操業度時間	6,120時間
同時期の変動費予算	1,836,000円
年間の固定費	1,530,000円
2. 19××年10月の実際発生原価

変動費	153,000円
固定費	130,000円
3. 同月の福利厚生部門実際時間 505時間
4. 同月の工事規模から算定された福利厚生部門の標準操業時間 480時間
5. 月間の固定費予算額は年間分を12分の1とする。
6. 変動費は公式法変動予算方式、固定費は固定予算方式により差異分析を行う。

【解答】

	標準配賦率	標準配賦額	予算差異	能率差異	操業度差異